

IBM

@server

iSeries 270/8xx

システム装置のアップグレード:
平衡型コンソールからオペレーション・コンソール
(フィーチャー 5544/5546/5548)

バージョン 5





@server

iSeries 270/8xx

システム装置のアップグレード:
平衡型コンソールからオペレーション・コンソール
(フィーチャー 5544/5546/5548)

バージョン 5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書は、IBM Operating System/400[®] のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 (製品番号 5722-SS1)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
270, 8xx
Upgrading the System Unit from
Twinaxial Console to Operations
Console (Features 5544, 5546, 554
Version 5

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのアップグレード	1	830、840、870、890、SB2、SB3、5074、5079、および 5094 装置	11
はじめる前に	1	ラック内の 270 および 810 装置	13
システム装置の電源オフ	2	PCI カードの位置	15
コンソール装置としてのオペレーション・コンソールの選択	3	270 システム装置	15
オペレーション・コンソール・ケーブルの接続	4	820 システム装置	16
システム装置のコントロール・パネル	7	830、840、890 システム装置	17
装置カバー	9	付録. 特記事項	19
270、800、810、または 820 システム装置	9	商標	20
825 システム装置	10	資料に関するご使用条件	21
		コードに関する特記事項	21

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのアップグレード

ここでは、平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにアップグレードする方法を紹介します。

リモートコントロール・パネル・ケーブルを接続する場合は、必ずこのアップグレードを開始する前にそのケーブルを用意しておいてください。

パーソナル・コンピュータ (PC) にオペレーション・コンソールの前提条件を取り付けます。前提条件については、*Information Center* の『オペレーション・コンソール』を参照してください。

LAN 接続性を取り付ける場合は、*Information Center* の『オペレーション・コンソール』を参照してください。

コンソール装置を変更する場合は、iSeries システム値 **QAUTOCFG** を **ON** に設定する必要があります。以下の手順を実行して、このシステム値を iSeries 上で確認または設定してください。

- __ 1. OS/400® コマンド行に **WRKSYSVAL QAUTOCFG** と入力して Enter キーを押します。
- __ 2. 「システム値の処理」画面から「変更オプション」を選択して、Enter キーを押します。
- __ 3. 「システム値の変更」から「1 (オン)」を選択して、Enter キーを押します。
- __ 4. 「システム値の処理」画面が表示されます。F3 を 1 回押して、「メインメニュー」に戻ります。

はじめる前に

取り付け作業または交換作業を始める前に、以下の作業を行います。

- __ 1. 取り付けの場合、および可能であれば交換の場合も、使用しているシステム (オペレーティング・システム、ライセンス・プログラム、データなど) の最新バックアップが手元にあることを確認します。PTF を最後に適用した後でオペレーティング・システムおよびライセンス・プログラムのバックアップをとっていれば、そのバックアップでかまいません。
- __ 2. 手順全体に目を通して、一連の手順を理解してください。
- __ 3. 中型のマイナス・ドライバーを用意します。
- __ 4. 部品が正しくなかったり、欠落している、あるいは外観上損傷がある場合には、以下にご連絡ください。
 - 認可されたサービス提供元
 - 米国の場合、IBM® 営業担当員
 - 米国以外の場合、次の Web サイトを参照して、サービス番号とサポート番号を確認してください。
<http://www.ibm.com/planetwide>
- __ 5. 論理区画に新しいハードウェアを取り付ける場合は、それを正常に行うための要件を計画および理解する必要があります。*Information Center* の『論理区画』を参照してください。その後、ここの指示を参照してください。
- __ 6. 取り付け中に不都合が生じた場合は、認可されたサービス提供元または特約店に連絡してください。
- __ 7. 新しいフィーチャーを取り付ける前に、PTF 前提条件があるかどうかを確認してください。次の Web サイトにアクセスします。

http://www-912.ibm.com/s_dir/slkbase.NSF/slkbase

- a. 「**All Documents**」を選択します。
- b. 「**General Information**」を選択します。
- c. 「**Offerings**」を選択します。
- d. 「**Feature Prerequisites**」を選択します。
- e. 「**Customer Installation Features Prerequisites**」を選択します。
- f. この製品のフィーチャー番号と OS/400 リリースを見つけて、前提条件を調べます。

システム装置の電源オフ

- __ 1. システムに統合 xSeries アダプター (IXA) が取り付けられている場合は、OS/400 オプションを使用してシャットダウンしてください。
- __ 2. すべてのジョブが完了していることを確認します。
- __ 3. すべてのジョブが完了したら、コマンド行に **pwrdownsys *immed** と入力して、Enter キーを押します。
- __ 4. ご使用のシステム装置は iSeries 270、800、810、820、または 825 ですか?
 - __ **270 または 810**: 次のステップに進みます。
 - __ **820 または 825**: ステップ 7 に進みます。
- __ 5. コントロール・パネルの「機能/データ」画面を見てください。7 ページの『システム装置のコントロール・パネル』を参照してください。
- __ 6. 「機能/データ」表示パネルに **01 B M V=x** (x は F または S のいずれか) が表示されていますか?
 - __ はい: ステップ 9 (3 ページ) に進みます。
 - __ いいえ: 以下の作業を行います。
 - __ a. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ b. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ c. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ d. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ e. 「機能/データ」画面に **M** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ f. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ g. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ h. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
 - __ i. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
 - __ j. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

「機能/データ」画面に **01 B M S** と表示されます。表示されない場合は、ステップ 6a ~ 6j を繰り返します。
 - __ k. ステップ 9 (3 ページ) に進みます。
- __ 7. コントロール・パネルの「機能/データ」画面を見てください。
- __ 8. 「機能/データ」表示パネルに **01 B V=S** が表示されて、手動モード標識 (小さい手) が点灯しましたか?
 - __ はい: 次のステップに進みます。
 - __ いいえ: 以下の作業を行います。

- __ a. 手動モード・インディケータ (小さい手のマーク) が点灯するまで、「モード選択」ボタンを押します。
- __ b. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ c. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
- __ d. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ e. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
- __ f. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ g. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。
- __ h. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __ i. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

「機能/データ」表示パネルに **01 B S** と表示され、手動モード標識 (小さい手) が点灯するはずですが、このように表示されない場合は、ステップ 8a ~ 8h を繰り返します。

- __ 9. コントロール・パネルにある「電源」押しボタンを押します。「電源オン」ライトがオンになるまで約 10 秒かかり、その後「機能/データ」画面にデータが表示されます。

注: システムに電源を入れてから IPL が完了するまでは、およそ 5 ~ 10 分かかります。IPL が完了すると、システム装置のコンソールに「システムの IPL または導入」画面が表示されます。

コンソール装置としてのオペレーション・コンソールの選択

オペレーション・コンソール (LAN) を選択する計画の場合は、*Information Center* の『オペレーション・コンソール』を参照してください。

ここでは、ダイヤルアップ LCS 用のコンソール装置としてオペレーション・コンソール (直接) を選択するための説明をします。「システムの IPL または導入」画面が表示されたら、次のようにします。

- __ 1. 「専用保守ツール (DST) の使用」を選択して、Enter キーを押します。
- __ 2. 専用保守ツールの現行パスワードを使用します。
- __ 3. 「保守専用ツール (DST) のサインオン」画面で「DST ユーザー」と「DST パスワード」に保守ツールのユーザー ID および保守ツールのパスワードを入力し、Enter キーを押します。
- __ 4. 「専用保守ツール (DST) の使用」画面から「DST 環境の処理」を選択して、Enter キーを押します。
- __ 5. 「DST 環境の処理」画面から「システム装置」を選択して、Enter キーを押します。
- __ 6. 「システム装置の処理」画面から「コンソール・モード」を選択します。
- __ 7. 「コンソール・タイプの選択」画面から「オペレーション・コンソール (直接)」を選択します。

重要: すでに 2 が表示されていても、必ず 2 と入力して、Enter キーを押してください。これで、値の再書き込みが強制的に行われます。

LAN を選択した場合は、*Information Center* の『オペレーション・コンソール』を参照してください。


- __ 8. 「専用保守ツール (DST) の使用」画面に戻るまで F3 キーを押します。
- __ 9. 「保守ツールの開始」を選択し、Enter キーを押します。
- __ 10. 「操作パネル機能」を選択し、Enter キーを押します。

- __ 11. ファンクション・キーを選択して、システムの電源をオフにします (F10)。
- __ 12. Enter キーを押して、電源遮断をすることを確認します。
- __ 13. 接続ワークステーションとプリンターの電源をオフにして、プラグを抜きます。

オペレーション・コンソール・ケーブルの接続

- __ 1. カバーを取り外します。9 ページの『装置カバー』を参照してください。
- __ 2. 静電気の放電によりハードウェアが損傷しないように、可能な場合は、使い捨てリスト・バンドを着用してください。使い捨てリスト・バンドがない場合は、ハードウェアの取り付けまたは交換を行う前に、システムまたは拡張機構の金属面に触れてください。

2209 使い捨てリスト・バンドを受け取った場合は、以下の作業を行います。

- __ a. 使い捨てリスト・バンドを着用します。  ビデオをご覧ください。
- __ b. リスト・バンドを広げる時は、末端に付いている銅フォイルの裏打ちシールをはがします。
- __ c. 銅フォイルを、装置のフレームの露出した、塗装されていない金属面に貼り付けます。

注: リスト・バンドなしで使用する場合と同じ予防措置を行います。2209 使い捨てリスト・バンドは、静電気を抑制するためのものです。このバンドを着用することによって、電気機器の使用時または作業時の感電の危険が増えることも、減ることもありません。

- __ 3. **270 システム装置**を使用している場合は、位置 C07 の位置を確認します。詳しい情報は 15 ページの『PCI カードの位置』を参照してください。

820 システム装置を使用している場合は、位置 C06 の位置を確認します。詳しい情報は 15 ページの『PCI カードの位置』を参照してください。

830、840、または 890 システム装置を使用している場合は、位置 C02 の位置を確認します。詳しい情報は 15 ページの『PCI カードの位置』を参照してください。

- __ 4. オペレーション・コンソール・ケーブル **部品番号 97H7557** を 2771、9771、9793、9799 カード上の右側のコネクタに接続します。
- __ 5. そのケーブルのもう一方の端を、オペレーション・コンソールに使用する PC で最初に使用可能なシリアル・ポートに接続します。
- __ 6. 接続するリモートコントロール・パネル・ケーブルがありますか?
 - __ いいえ: 次のステップに進みます。
 - __ はい: リモートコントロール・パネル・ケーブル (終端のピンが欠けている) を、**デバッグ**というラベルの付いたシステム装置背面のコネクタに接続します。リモートコントロール・パネル・ケーブル (97H7591) のもう一方の端を、コンソールとして使用している PC の背面の平行ポートに接続します。次のステップに進みます。
- __ 7. システム装置のカバーを取り付けます。
- __ 8. **危険**

電源コンセントの配線に誤りがあると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に高い電圧がかかり危険になりかねません。感電事故防止のため、電源コンセントを正しく配線しコンセントの接地端子を正しく接地する (アース) 工事はユーザーの責任で行っていただきます。(RSFTD201)

以下の電源コードのプラグを電源コンセントに差し込みます。

- システム装置

注: この時点でシステム装置の電源をオンにしないでください。

- システム装置コンソール
- システム拡張機構

__ 9. コンソールであるワークステーションまたは PC の電源をオンにします。

__ 10. システム装置は 270/810 または 820/825 のどちらですか?

__ 270 または 810: 次のステップに進みます。

__ 820 または 825: ステップ 13 に進みます。

__ 11. コントロール・パネルの「機能/データ」画面を見てください。

__ 12. 「機能/データ」画面に **01 B N V=S** と表示されていますか?

__ はい: ステップ 15 (6 ページ) に進みます。

__ いいえ: 以下の作業を行います。

__ a. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ b. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ c. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ d. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ e. 「機能/データ」画面に **N** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ f. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ g. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ h. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ i. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ j. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

「機能/データ」画面に **01 B N S** と表示されるはずですが、表示されない場合は、ステップ 12a ~ 12i を繰り返します。

ステップ 15 (6 ページ) に進みます。

__ 13. コントロール・パネルの「機能/データ」画面を見てください。

__ 14. IPL モードの「通常 (OK)」が選択された状態で、「機能/データ」画面に **01 B V=S** が表示されていますか?

• はい: 次のステップに進みます。

• いいえ: 以下の作業を行います。

__ a. 手動モード・インディケータ (小さい手のマーク) が点灯するまで、「モード選択」ボタンを押します。

__ b. 「機能/データ」画面に **02** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ c. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ d. 「機能/データ」画面に **B** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ e. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ f. 「機能/データ」画面に **S** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。

__ g. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

__ h. 正常標識 (**OK**) が点灯するまで、「モード選択」ボタンを押します。

- __i. 「機能/データ」画面に **01** が表示されるまで、「増/減」押しボタンを押します。
- __j. コントロール・パネルの「機能開始」押しボタンを押します。

「機能/データ」表示パネルに **01 B S** と表示され、**OK** が点灯します。このように表示されない場合は、ステップ 14a (5 ページ) ~ 14i を繰り返します。

- __ 15. コントロール・パネルにある「電源」押しボタンを押します。およそ 10 秒後に電源オン・ライトがオンになり、「機能/データ」表示パネルにデータが表示されます。

注: システムに電源を入れてから IPL が完了するまでは、約 5 ~ 20 分かかります。IPL が完了すると、「機能/データ」画面に **01 B N S** が表示されます。

- __ 16. *iSeries* セットアップおよびオペレーション (SK88-8058-02) を PC の CD-ROM ドライブに入れて、簡単セットアップ・ウィザード・オプションを選択して *iSeries* をセットアップします。取り付けプロンプトに従って完了させてください。
- __ 17. オペレーション・コンソールの動作時に、すべての接続装置 (印刷装置や表示装置など) のプラグを差し込み、電源をオンにします。

システム装置のコントロール・パネル

iSeries システム装置の前面にある、コントロール・パネルの扉を開きます。

コントロール・パネルの外観は、図 1、または 8 ページの図 2 のようになっています。ご使用の装置のコントロール・パネルを確認してください。

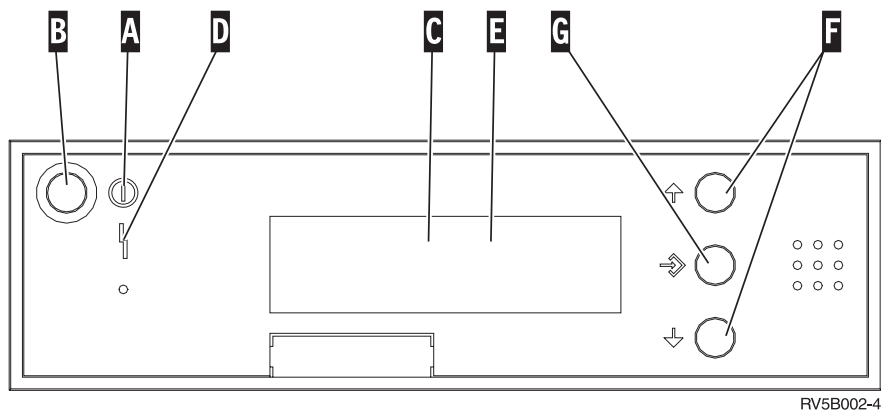
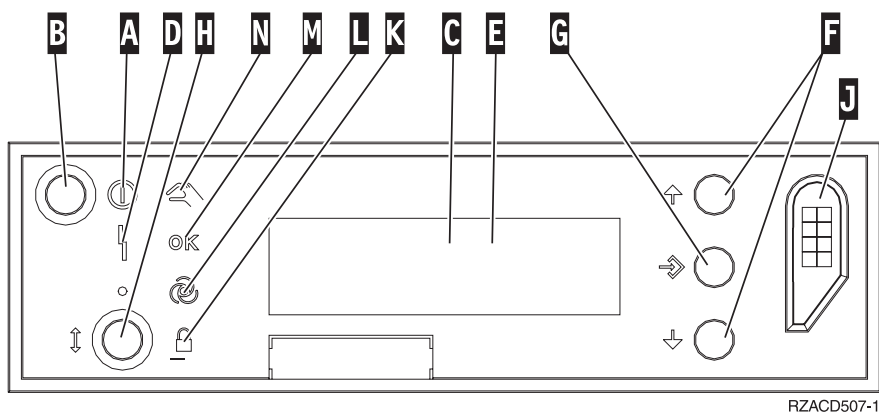


図 1. 電子キースティックのないコントロール・パネル

以下は、図 1 にある各部の説明です。

- A** 「電源オン」ライト
 - ライトが明滅しているときは、装置に電源が供給されています。
 - ライトが点灯しているときは、装置は作動中です。
- B** 「電源」押しボタン
- C** 処理活動状態
- D** 「システム・アテンション」ライト
- E** 「機能/データ」表示パネル
- F** 「増/減」ボタン
- G** 「機能開始」押しボタン

コントロール・パネルが 8 ページの図 2 のようになっている場合、**F** の「増/減」ボタンと **G** の「機能開始」押しボタンを使用するには、先に **H** の「モード選択」ボタンを押して、手動モード **N** を選択しておく必要があります。



RZACD507-1

図2. 電子キースティックのあるコントロール・パネル

- A** 「電源オン」 ライト
 - ライトが明滅しているときは、装置に電源が供給されています。
 - ライトが点灯しているときは、装置は作動中です。
- B** 「電源」 押しボタン
- C** 処理活動状態
- D** 「システム・アテンション」 ライト
- E** 「機能/データ」 表示パネル
- F** 「増/減」 ボタン
- G** 「機能開始」 押しボタン
- H** 「モード選択」 ボタン
- J** 電子キースティック・スロット
- K** ロック
- L** 自動
- M** 通常
- N** 手動

装置カバー

ご使用の装置を選択してください。

- __ 『270、800、810、または 820 システム装置』
- __ 11 ページの『830、840、870、890、SB2、SB3、5074、5079、および 5094 装置』
- __ 13 ページの『ラック内の 270 および 810 装置』

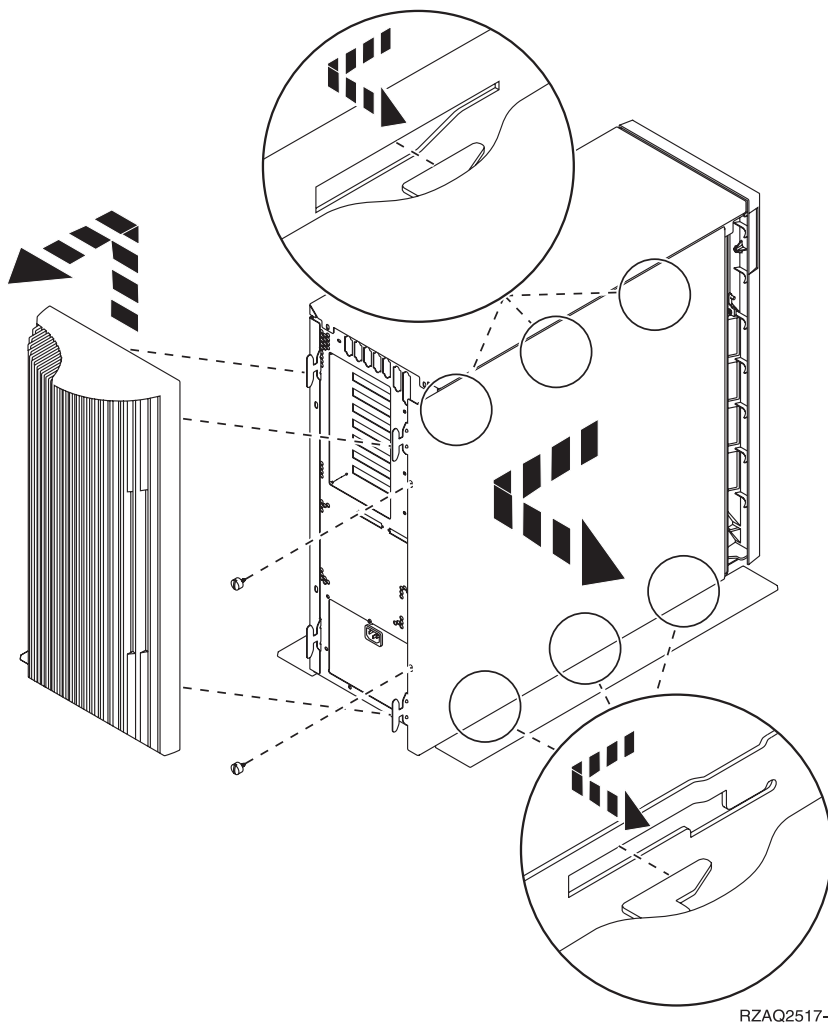
270、800、810、または 820 システム装置

PCI カード位置を見つけるには、背面カバーともしあれば側面カバーを取り外す必要があります。

- __ 1. 背面カバーの下部を持ち、上に持ち上げて取り外します。
- __ 2. **重要:** 電源をオンにしたまま側面カバーを取り外すと、電磁障害のためにエラーが起こる場合があります。

つまみねじを緩め、カバーを前から後ろへ止まるまでスライドさせて、右側面カバー (背面から見て) を取り外します。

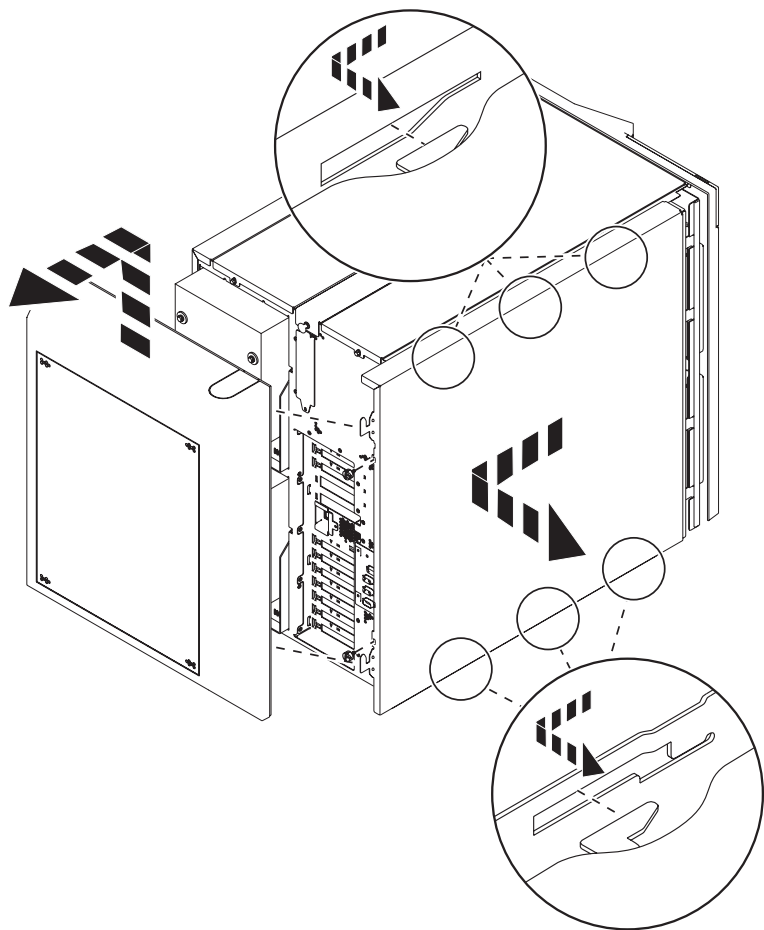
- __ 3. カバーを引き出します。



825 システム装置

PCI カード位置を見つけるには、背面カバーと側面カバーを取り外す必要があります。

- __ 1. 背面カバーの下部を持ち、上に持ち上げて取り外します。
- __ 2. つまみねじを緩め、カバーを前から後ろへ止まるまでスライドさせて、右側面カバー (背面から見て) を取り外します。
- __ 3. カバーを引き出します。

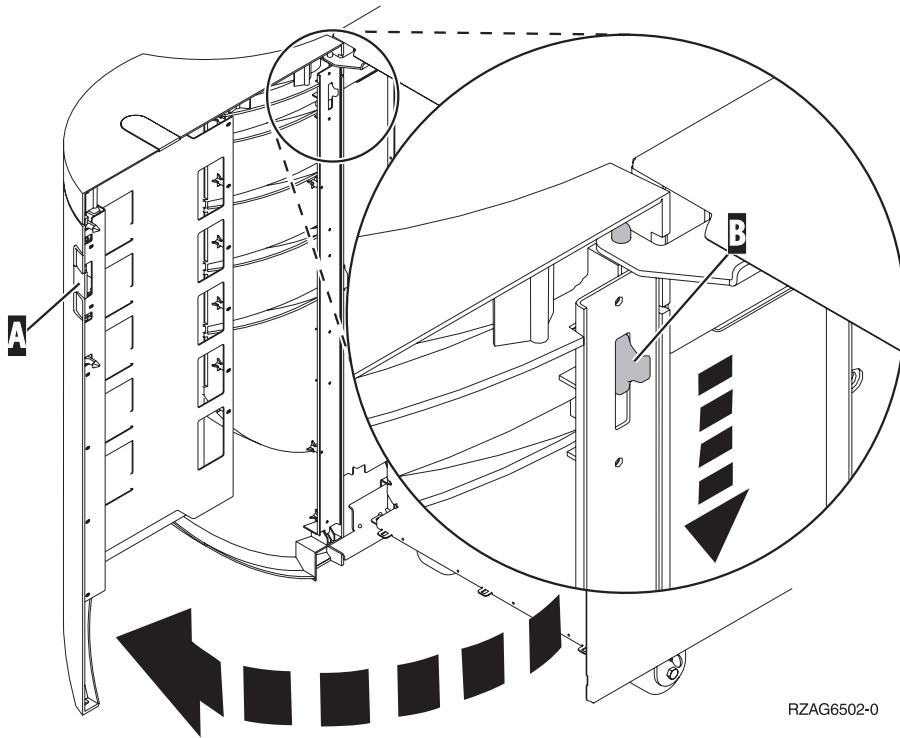


RZAME601-0

830、840、870、890、SB2、SB3、5074、5079、および 5094 装置

PCI カード位置に届くようにするには、背面カバーを開ける必要があります。

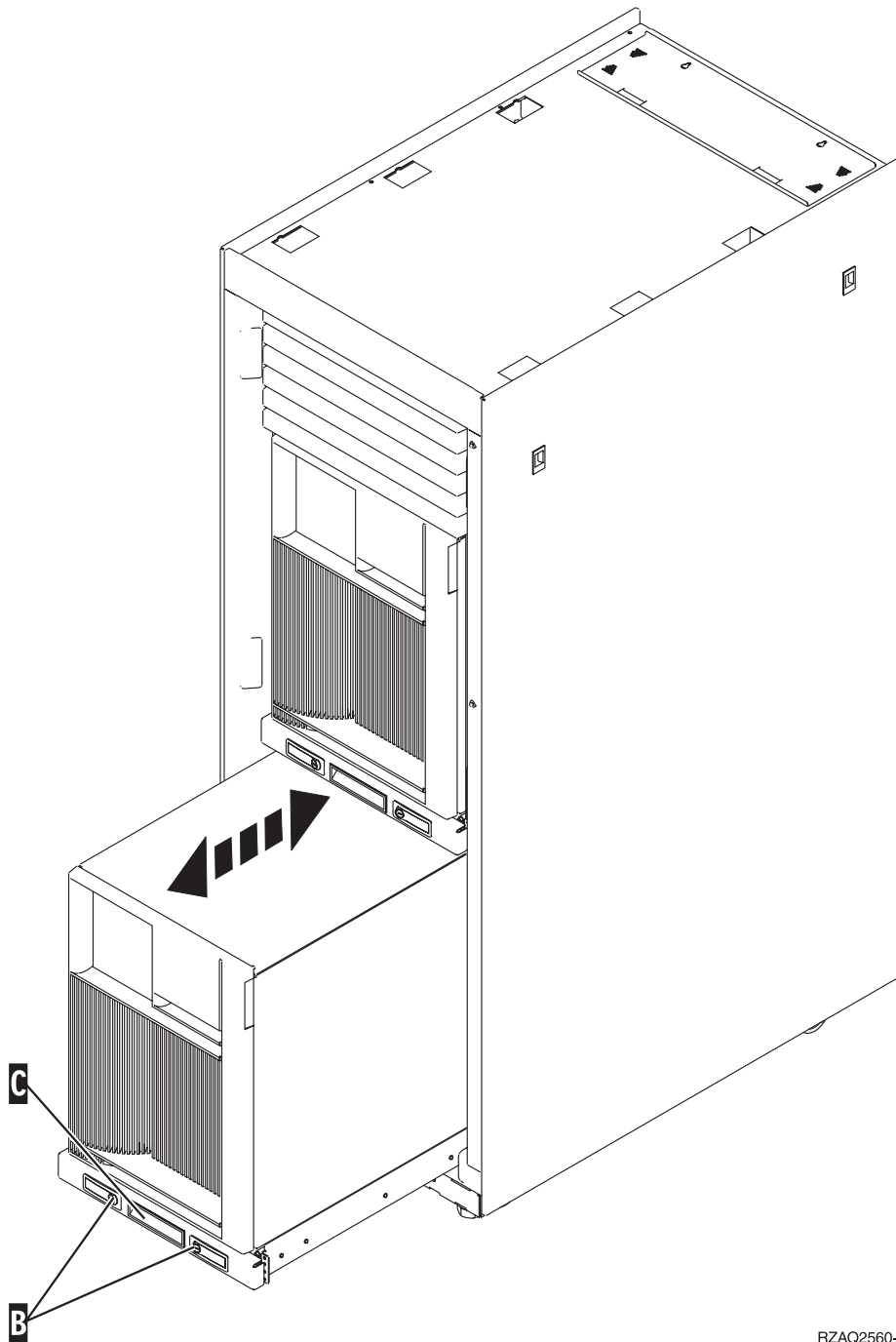
- **A** 背面カバーを開きます。
- **B** 背面カバーを取り外します。
- PCI カード・アクセス・プレートを取り外します。



RZAG6502-0

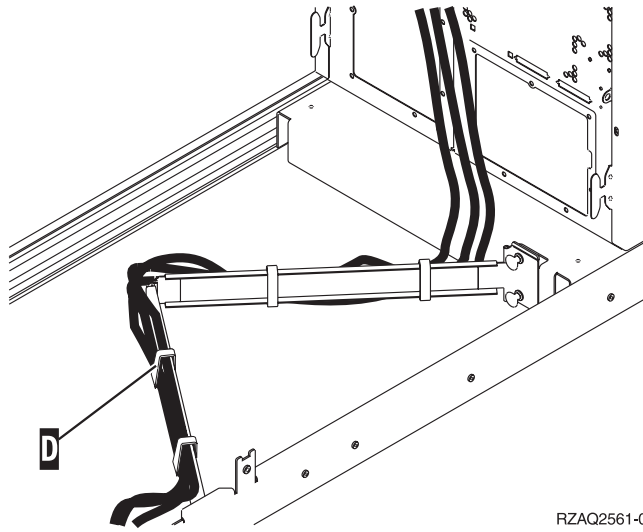
ラック内の 270 および 810 装置

1. ラッチ **B** を押し、ハンドル **C** を使ってサーバーを引き出します。



RZAQ2560-0

2. 前出の装置の図を参照して、側面カバーを取り外します。
3. サーバーの配線を行う場合、ケーブル管理アーム **D** に沿って余分な配線を送り、ファスナーでケーブルを固定します。



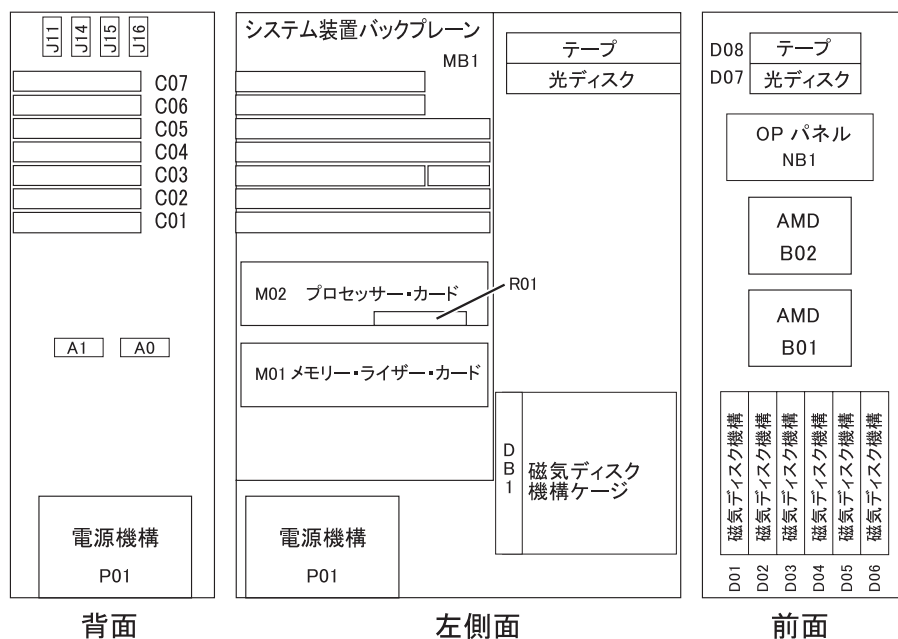
RZAQ2561-0

PCI カードの位置

ご使用の装置の個所を参照してください。

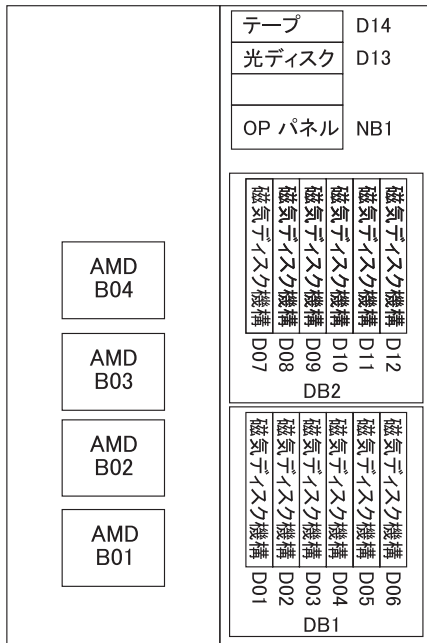
- 『270 システム装置』
- 16 ページの『820 システム装置』
- 17 ページの『830、840、890 システム装置』

270 システム装置

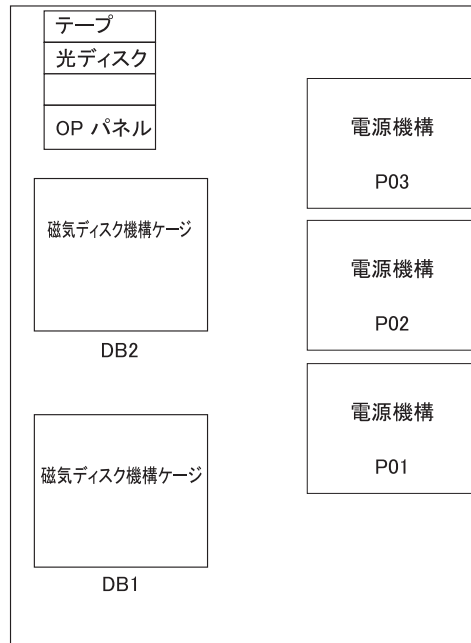


RZAQ2502-7

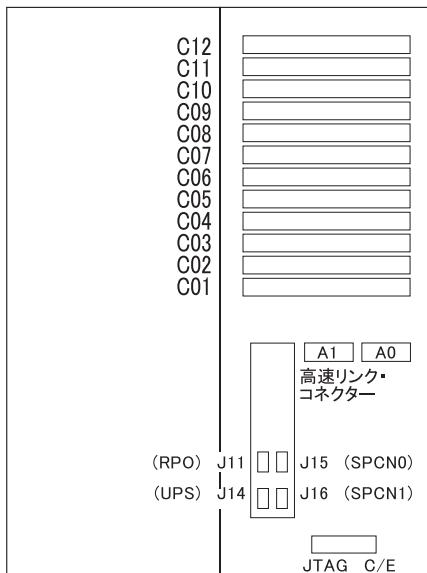
820 システム装置



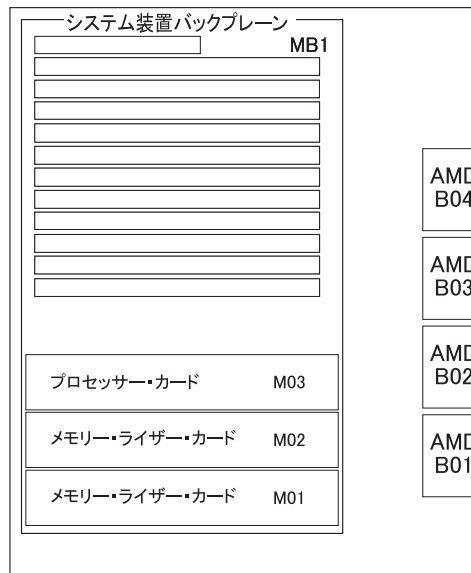
前面



右側面



背面



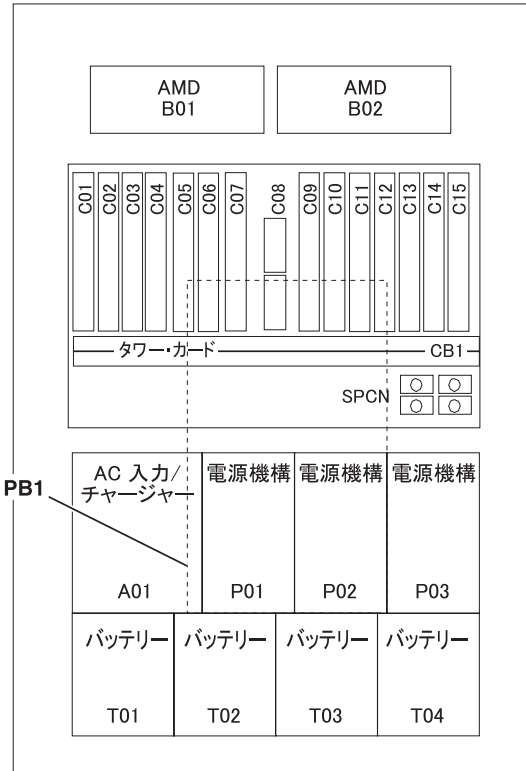
左側面

RZAQ2503-6

830、840、890 システム装置



前面



背面

RZAQ2507-4

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書は、本書で指定された機械を保守または修理する目的で、ハードウェア・サービス営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書で指定された機械の操作または計画の目的で、お客様営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Application System/400

AS/400

e (ロゴ)

Freelance

IBM

iSeries

Lotus

Operating System/400

OS/400

WordPro

400

MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan